

《一席》

おじいちゃん

日知屋東小学校 五年 河野 七望

私のおじいちゃん  
とてもやさしいおじいちゃん  
笑顔がすてきなおじいちゃん  
しっかりしてるおじいちゃん  
全部大好きおじいちゃん  
だけどいつかは死をむかえる  
それは神様があたえた送り物

どう願っても変えられない  
ざんこくで悲しい送り物  
おじいちゃん  
お空の上から見えていてね  
私泣かずにがんばるから  
だけどたまに思い出す  
いろいろな思い出す  
空を見ると思い出す  
おじいちゃんのすがたを  
私の自まんのおじいちゃん  
私の大好きおじいちゃん  
なくなつたとしてもずっとわすれない



## 《二席》

### 夏の日常

日知屋小学校 六年 山田麗心

朝からギラギラ太陽が  
窓をじつとりてらしてる  
起きたばかりなのにあせだくで  
タオルで顔をごしごしふく  
アスファルトはフライパン  
通りすがりのねこもかげへ  
公園のすべりだいはあつすぎて  
さわって「アチッ」と飛びはねる

あついあついと言いながら  
つめたいアイスをかじる時  
口の中にひんやりな  
ゆきがふったみたいだね  
夕方になってもまだあつい  
うちわでぱたぱたあおいでも  
セミの声がとまらない  
夏の音楽会みたいだね  
夜の空にも太陽の  
ぬくもりだけが残っている  
暑いけれども夏だから  
ちよつとだけ好きなきもする



## 《二席》

### むしやものの音・声

財光寺南小学校 四年 矢野望来

セミの音ジージージー

波の音ザブンザブンザブン

風の音ビュンビュンビュン

工事の音シャーガチャンドシン

食べる音ザクカリカリカリ

人の声ザワザワザワ

ボールの音バンバンバン

なき声もオギヤアアオギヤアア

そうじの音シーシ・キュツキュツキュツ

あそぶ声ワイワイワイ

チャイムの音キンコンカーンコン

キンコンカーンコン

さいごに一つだけ

いすの音ガリガリガリガリ

いやもう一つだけ

シャワーの音シャーシャーシャー



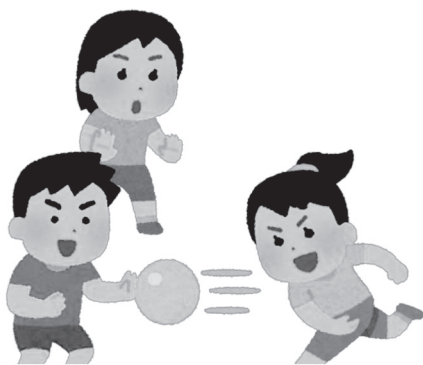
## 《三席》

### 九州大会

日知屋小学校 五年 吉留 晋太朗

初めてのドッジボール九州大会  
何度も 何度も アタックをした  
「よし！アタックが決まった！」  
ぼくは勝利を確信した  
おうえんの声が聞こえてくる  
「がんばれ」「ドンマイ」  
でも小さなミスがたくさん続いた  
くやしかった

ぼくはしずかに泣いた  
涙が ほかの人に見えないように  
勝てると思ったんだ  
優勝をめざして  
一生けん命練習したのに  
きつかった五分間走も  
声を出せと 言われても  
つかれすぎて 声もでないくらい  
ぼくの次の目標は 全国大会  
あのあこがれのカラーコートで  
アタックを数えきれないくらい  
決めるんだ



## 《三席》

ぼくは、トイレそうじ

財光寺小学校 六年 中 竹 惺 哉

ぼくは、トイレそうじ

まい週三回そうじがある。

火曜日、木曜日、金曜日、にそうじがある。

ぼくは、トイレそうじ

トイレのすいどう、べんき、ゆかを

はわくのがぼくのしごと。

ぼくは、トイレそうじ

トイレそうじは、二人いる。

二人じゃないとおわらない。

二人でやくわりをきめてそうじするのが

ぼくたちのしごと。

ぼくは、トイレそうじ

トイレトッパーとせっけんをかえたり、

新しくすることがしごと。



## 《三席》

### 夜の自然の音楽会

財光寺小学校 六年 鈴木愛海

風で動く草と木のバイオリンの音  
雨の日にはポロンポロンとピアノの音  
海のザーザー楽器の音  
無数の星のスポットライトの下で  
一度聞きたい夜の自然の音楽会  
新月の日は短調で満月の日は長調の曲  
音楽会を見にきた魔女たちが

ほうきに乗って空を飛んでいく  
風で動く草と木のバイオリンの音  
雨の日にはポロンポロンとピアノの音  
海のザーザー楽器の音  
無数の星のスポットライトの下で  
一度聞きたい夜の自然の音楽会  
今日もきつと夜に始まる  
耳をすまして聞いてみよう  
夜の自然の音楽会



《佳作》

調理実習

日知屋小学校 六年 村田 佑斗

水で洗うと  
ジャバジャバジャバ  
と歌ってる  
皮をむいたら  
シャツシャツシャツ  
と歌ってる  
食べ物切ると

トントントン  
と歌ってる  
食べ物いためると  
ジュージュージュー  
と歌ってる  
そんな食べ物の合唱団  
指揮者はもちろん  
つくるぼくたち  
できあがったら皿に盛りつけ  
みんながっしょう  
いただきます



《佳作》

全校リレー

財光寺小学校 五年 鈴木 爽

「いちについてよいどん」  
全校リレーがスタート  
一年生が一位で走ってくれた  
二年生、三年生と一位で順番がまわってきた  
わたしはバトンをもらった  
一生けん命走った  
わたしの番でも二位のだんに

おいぬかされることはなかった  
そしてそのまま全校リレーで一位になった  
最後ゆうしょうしただんの発表があつた  
「ゆうしょう白だん」  
わたしは、青だん  
まけてしまった  
すごくくやしい  
ぜったい今年は、一位を  
勝ち取りたい



## 《佳作》

### 溪流釣り

財光寺小学校 五年 奈須陽愛

美郷町南郷水清谷に行った。  
溪流釣りのイベントがあり、  
アユ、ニジマス、ウナギが放流されていた。  
さおを借り、ブドウ虫を父につけてもらい、  
釣りをする。  
水の音、虫の声を聞き、釣りに集中する。  
ニジマスが釣れた。

釣りの時間がおわり、つかみ取りをする。  
暑い中、冷たい水につかり、気持ちが良い。  
アユをつかまえ、楽しかった。  
友達に会い、いっしょに川遊びをした。  
また来年も、楽しみたい。



《佳作》

私の名前

財光寺小学校 六年 田中乃愛

私の名前、たった一つの名前

私が初めて生まれた日

お母さんお父さんに初めてであつた日

お母さんに初めてだっこされて、

家族で決めたたった一つの名前

みんなが私を呼んでいる

大きな手をにぎって、泣く私

家族の一人目になれた

みんな私を呼んでいる

これからその先もいっしょう使う名前

生んでくれてありがとう

私の名前を決めてくれてありがとう

次は、私も一緒に考えるね。



《佳作》

キャッチャーミットの音

美々津小学校 六年 谷口 遥斗

マスクの中で深呼吸  
ぼくはピッチャーをじつと見る  
サインを出す  
どんな球を投げるのか  
ピッチャーと考える  
スパッ！  
今日もミットが

いい音を出す

球がどんなに速くても  
絶対にそらさない

走ってくる人がいたら  
すぐに立って 素早く投げる

キャッチャーは目立たないけど  
みんなを支えてる  
誰よりもグラウンドを見ている



《佳作》

ダンスの発表会

大王谷学園 五年 工藤 淳未

発表会前日の夜からドッキドキ  
緊張しすぎてねむれない  
楽しみだけど不安が勝つ  
失敗したらどうしよう  
大丈夫って  
自分に言いかける  
発表会当日  
はっはっ

しんぞうの音がきこえそう  
いよいよ本番  
失敗したらどうしよう  
でも今までの練習のせいかを出せば  
いいんだ  
音楽がながれ始めた  
あれ  
きゆうに緊張がなくなった  
本番が終わりひと安心  
でも今思った  
かんぺきにおどらなくても自分なりに  
せいっぱいおどればいいの



《佳作》

父といつしよに

父といつしよに  
バイク乗る  
風を感じて  
バイク乗る  
父の背中を見ていたら  
なんだかとても  
たのもし  
坂を上り

日知屋東小学校 六年 橋本峻佑

山を下り  
父といつしよに  
バイク乗る  
風を感じて  
バイク乗る  
背景を楽しく見ていたら  
なんだかとても  
気持ちいい  
父といつしよに  
乗ってたら  
幸せの時  
楽しい時間



《佳作》

時間

財光寺南小学校 四年 濱田 旺志郎

朝には太陽は東から目ざめ  
人や動物も目ざめる  
朝ごはん食べたら  
みんなの一日が始まる  
昼には太陽南にのぼり  
人は学校や仕事があり  
動物はかりの時間になる

夕方になると  
オレンジ色の太陽西にしずみ  
きれいな夕日を見せてくれる  
夜になると  
空には月や星があり  
きれいな雲の川見える  
夜ごはん食べふろ入り歯をみがき  
一日が終わる



《佳作》

私の命

財光寺南小学校 六年 赤木舞佳

お母さんがくれた

新しい命

私が生まれた日

まだ何も喋れないけど

みんなの声は聞こえてる

あつという間に小学生

新しい友達

新しい先生

初めての授業

いつもと違う生活

私の宝物は

自分の命

無駄にはいけない

お母さんにもらった

大切な命



《佳作》

飛行機雲は

東郷学園 五年 黒木莉陽

飛行機の  
後ろにひっつく白い線  
飛行機が  
飛んだらくっつく白い線  
空を走る飛行機と  
空を切る飛行機雲  
きれいな直線  
引っ張って

長い長い線  
引っ張って  
一生けん命  
引っ張って  
目的地まで  
引っ張って  
時間が経つと  
消えるけど  
それでも  
たくさん引っ張って  
今日も飛行機に着いて行く

